

ことばの宝石箱 ～言葉がもつ大きな力～

学習プログラム案作成までのプロセス

きっかけは

教師のねがい

子どもたちは普段は、相手の立場や言葉の意味そのものを考えずに話している様子が見られる。一方で友達の良い言葉によって笑顔を見せたり、励まされたりという光景も目にする。多くのメディアから得られる情報が氾濫し、言葉の重みに対して我々日本人が無頓着になってしまっている感さえある。

また、現在、地域はもちろん、学校の中にも外国出身者が在籍する場合も少なくない。彼らとのコミュニケーションの方法の一つも"言葉"であり、相手を思いやる言葉が信頼関係を築いていく。

このような中、今一度、自分たちが使っている言葉をふりかえり、言葉の重みについて考え直す必要があると考えていた。

言葉の分からない異国に生活をし、その不便さ、不安さ、孤立感などを感じている人たちが身近にいることに気づいてほしい。そして言葉の大切さ、言葉のもつ力のすばらしさなどを知るとともに、言葉を学び合うことの楽しさにも触れてほしい。

NGOのおもい



こんなふうにつくりました

1 チームミーティング(9月17日)「十分な共通認識」

NGO側のおもい、児童の実態と教師の願いについて十分に共通認識を行った。両者の願いと素材をふまえて実践可能な内容を出し合い、「言葉」と「コミュニケーション」の2点に絞った。段階を踏んだ全体の流れの学習プログラム案作りを確認した。

一日かけて、話し合ったことがよかった。やっぱり最初が肝心!

2 第1回全体共有会(9月24日)「第1次教案の検討」

全体共有会で学習プログラム案の発表と検討を行った。日本語教室に通う外国人の体験を切り口に、言葉について考える学習プログラム案を発表した。「学校での道徳や国語で扱う内容ではないか」、「ねらいは言葉か日本語か」等の意見や質問をいただき、内容をさらに検討していった。



チームミーティング

3 チームミーティング(10月28日)「国際理解教育の再確認」

山西優二先生が『わーい!外国人が教室にやってきた!』(武蔵野市国際交流協会2002年、本冊子P.38参照)の中で書いている『国際理解教育とは—そのねらいとその手法—』の読み合わせを行う。各ステップのねらいに迫るための手法を再検討した。

各ステップを担当する教師の提案のもと、具体的に内容が固まってくる。

山西先生の文章はむずかしい! 5時間かけて読解。でも、「関係性の再構築」には深く共感!

4 第2回全体共有会(11月4日) 「第2次教案の検討」

「気づく→知る→考える→深める→広める」という段階をふまえたプログラム、それぞれのステップでのねらいや手法(ランキング、ロールプレイ)を取り入れた。模擬授業を発表し、多くの意見をいただいて、さらなる検討材料とした。



5 授業実践(ステップ1) (11月6日) 対象:福島市立湯野小学校5年生 (11月27日) 対象:福島市立北沢又小学校6年生

外国から来た小学生のエピソード(資料1P.32掲載)を真剣に聞き入り、「言葉の大切さに気づく」というねらいに迫ることができた。

NGOに来てもらってよかった!
子供たちの感動が違う!

6 授業実践(ステップ2) (11月15日) 対象:福島市立湯野小学校5年生 (11月28日) 対象:福島市立北沢又小学校6年生

活動中やふり返りで、自分たちの言葉には、「あったか言葉」よりも「ちくちく言葉」が多いという意見が聞かれ、日常生活の言葉づかいに気づくことができた。

~子供たちのつぶやき~
「どうしてちくちく言葉を
使っちゃうのかな?」

7 授業実践(ステップ3) (11月22日) 対象:福島市立湯野小学校5年生 (12月6日) 対象:福島市立北沢又小学校6年生

言葉の受け止め方を考えさせるために、ランキング、ロールプレイを使った。楽しみながらも、相手を考えて言葉の大切さを考えることができた。



8 チームミーティング(11月23日) 「授業実践のふり返り」

ねらいに迫るためのそれぞれの手法が有効であったことが確認できた。また、子供たちに「考えさせる」、「ふり返らせる」ための発問の重要性を話し合った。

9 チームミーティング(12月8日)「ふくしまグローバルセミナー2007の打合せ」

進め方と役割分担について確認した。



10 ふくしまグローバルセミナー2007での実践(12月15日・16日) 対象:高校生以上

学校での実践をもとに高校生から一般を対象にした講座を行う。自分の使う言葉へのふり返り、相手を思いやった言葉の大切さに気づくことができる講座を実施することができ、講座参加者からも好意的な意見が多数あった。

子供だけでなく、大人を相手にも
結構授業ができるわ。

世代間で言葉への感覚がこんなに
違うなんてオドロキ!

11

チームミーティング(12月25日)
「ふくしまグローバルセミナー2007での実践のふり返り」

対象が高校生から一般でも、ちょっと内容を変えれば、十分対応できる講座だった。

また、外国人のエピソードは最後のまとめとするよりも、最初の導入にしたほうが流れがスムーズであることが確認できた。

子どもから大人までに気づかせる、
考えさせる発問や働きかけは
むずかしい。

12

第3回全体共有会(1月5日)「全体の流れの再検討」

授業実践、グローバルセミナーの実践を通しての反省をふまえ、プログラムの最終検討を行う。

段階を踏んだプログラム、ねらいに沿った手法であるという意見があった。



ふくしまグローバルセミナー2007
での実践

全体をふり返って

★ 教師の立場から

地域で活動するNGOを知り、それを子ども達に伝えるだけでなく、教材として取り上げ、教育につなげられたことは貴重な財産となった。この学習プログラム案を通して、相手のことを考えた言葉づかいができ、コミュニケーションをとれる大人になって欲しい。

★ NGOの立場から

自分たちの活動が学習プログラムに生かされ、実践できたことに大変感激した。

学校現場の先生方との話し合いを通して、先生方、子どもの視点に立った純粋な考え方にあらためて感動した。自分たちの活動を見直すきっかけにもなり、今後の活動に生かしていきたい。



二本松国際交流ボランティア ざくざくネット

当会は、日本人ならびに外国人が、相互に生活しやすい環境づくりを行うことを目的として、平成11年に発足した。日本語教室を主な柱として、交流会、広報紙発行などを行っている。

日本語教室に勉強に来る外国人の中には、簡単な挨拶さえもできない人や、日本語が全くわからないのにもかかわらず、学校では毎日日本語で勉強をしなければならない子どもたちもいる。私たちはそのような人たちの必要に応じ、できるだけ楽しく日本語の習得ができるようお手伝いをしている。

◆連絡先(氏家) TEL: 0243-22-5593
FAX: 0243-22-0081
E-mail: ja7kdu@nifty.com



学習プログラム案完成!

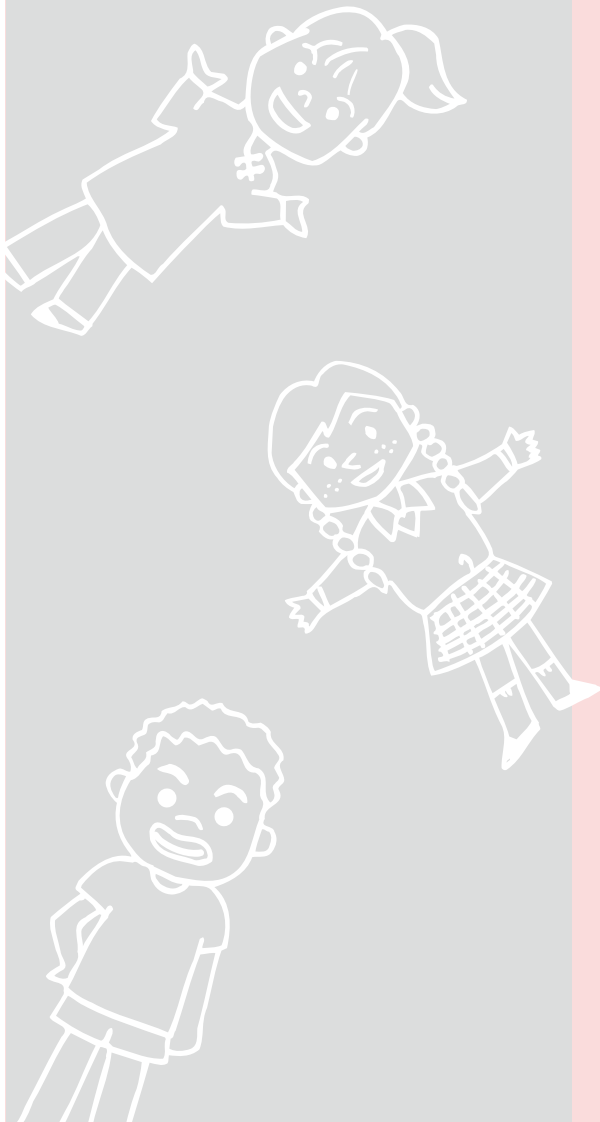
ことばの宝石箱 ～言葉がもつ大きな力～



対 象 小学校高学年以上
時間数 6時間

ねらい

- 【関心・意欲・態度】**
- 自分たちの使っている言葉をふり返り、相手の立場に立ってよりよい言葉を使おうとする。
- 【技能・表現】**
- 相手の立場を考えた言葉を選び、適切な言葉を使ってコミュニケーションをとることができる。
- 【知識・理解】**
- よりよい人間関係を築くためには、相手の立場を考えた言葉が大切であることを理解する。



全体の流れ

Step1 (1時限)

題 名 「言葉って大切だね」
主な内容 日本語ボランティアの方から日本に暮らす外国人のエピソードを聞き、人とのコミュニケーションにおいて言葉が大切であることに気づく。

Step2 (2・3時限)

題 名 「わたしたちが作る日本語教室」
主な内容 自分たちの教室に外国人の転校生が来た場合を想定し、その転校生と早く仲良くなるために覚えてほしい言葉や覚えてほしくない言葉について話し合う。また、自分たちの日常生活で使っている言葉をふり返り、相手の立場を考えた言葉を使うことの大切さを知る。

Step3 (4・5時限)

題 名 「言葉のもつ魔力～あなたの言葉は宝石？それとも…？」
主な内容 なぐさめるとき、断るとき、励ますとき、様々な状況において、相手にかける言葉にはいろいろな言い方があることに気づく。それらをランキングやロールプレイなどの手法を使って、言葉の影響力について考える。

Step4 (6時限)

題 名 「わたしの言葉の宝石箱」
主な内容 笑顔のある学級にするためにあふれさせたい言葉集めをする。集めた言葉の中から、自分がたくさん使いたい言葉を選択し、さらにはオリジナル自己評価表を作り、自らの生活に生かす。

※アレンジ案(発展的な内容としての扱い)

Step5

題 名 「みんなが笑顔のまちに」
主な内容 自分たちの地域が笑顔でいっぱいのもちにするために、人や吹き出しのあるイラストマップを作り、宝石のような言葉を広める。


資料1
P.32
参照

P.30に
あります

P.31に
あります


資料2
P.33
参照

題名 わたしたちが作る日本語教室 (90分)
ねらい 外国から来た友達と早く仲良くなるために、覚えてほしい日本語「あったか言葉」、覚えてほしくない日本語「ちくちく言葉」を選択することができる。
 選択した日本語を自分たちの生活の中で使っているかどうかをふり返り、積極的に「あったか言葉」を使おうとする気持ちを育てる。

 **準備物** 外国から来た子どもたちの写真、言葉カード (付箋)、ワークシート、シール

内容	時間(分)	進行上のポイント
1 前時のふり返りと本時の活動の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">オリジナル日本語教室を作ろう。</div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の内容を簡単にふり返り、本時のめあてを確認するとともに、意欲を喚起する。 ○相手意識をもてるように、前時に紹介した外国から来た子どもたちの写真を提示しておく。
2 「ちくちく言葉」集め (1) 外国から来た友達が、早く仲良しになるためには、覚えてほしくない日本語「ちくちく言葉」を考える。 (2) グループごとに、言葉カードの仲間分けをする。 (3) 「ちくちく言葉」ランキングをグループで話し合いながら作る。 (4) それぞれのグループのランキングを発表する。 (5) ランキングを見て気づいたことを話し合う。	25	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が外国に行った場合を想定したり、休み時間の様子を思い出したりして、具体的に考えられるようにする。 ○思いつく言葉を付箋1枚に一言ずつ、次々書いていくようにする。 ○同じ言葉のカードは重ねておく。 ○友達は、どんな言葉を思いついていたのか、自分の言葉と比べながら確認できるようにする。 ○賛成意見の数の多さだけでなく、なぜ選んだのか理由を確認することで、言葉の役割について気づくことができるようにする。 ○ランキングに入った言葉には、どんな共通点があるか考えたり、どんなときに使う言葉かを分類したりして、考えをまとめられるように支援する。 ※理由を明確にして、「ちくちく言葉」ランキングを作ることができたか。
3 「あったか言葉」集め (1) 仲良しになるために覚えてほしい日本語「あったか言葉」を考える。 (2) グループごとに、言葉カードの仲間分けをする。 (3) 「あったか言葉」ランキングをグループで話し合いながら作る。 (4) それぞれのグループのランキングを発表する。 (5) ランキングを見て気づいたことを話し合う。	25	<ul style="list-style-type: none"> ○「ちくちく言葉」と同じように、付箋に言葉を書き出していく。 ○「ちくちく言葉」を書き出した時と言葉の出方を比較してみる。 ○「ちくちく言葉」と同じように、理由を明確にしてランキングを作っていく。 ○ランキングに入った言葉には、どんな共通点があるか考えたり、どんなときに使う言葉かを分類したりして、考えをまとめられるように支援する。 ※理由を明確にして、「あったか言葉」ランキングを作ることができたか。
4 自分たちの生活のふり返り (1) 自分たちが作った「あったか言葉」及び「ちくちく言葉」ランキングの言葉の使用頻度を考える。 (2) (1)と自分たちの生活を比べて、気づいたことを話し合う。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○最近話したり聞いたりした言葉にシールを貼らせ、日常生活での使用頻度を視覚的にとらえやすくする。 ○普段「あったか言葉」をあまり使っていなかったり、「ちくちく言葉」を使っていたりしていることに気づく。 ○積極的に「あったか言葉」を使おうとしている子どもの気持ちを発表させる。
5 本日のまとめをする (1) 今日の学習を通して、気づいたこと・考えたことをワークシートにまとめる。	15	

題名 言葉のもつ魔力～あなたの言葉は宝石？それとも…？（45分）
 ※第4時はシチュエーション①②③(資料2ロールプレイ台本P.33掲載)のための言葉集めをする。
ねらい 様々なシチュエーションによる言葉のランキングをしたり、その言葉を使ったロールプレイをしたりして、相手とよい関係を築くための言葉やその影響力について考える。

 **準備物** ランキングのカード（シチュエーションごとに各9枚）
 ロールプレイ台本（資料2、P.33に掲載）

内容	時間(分)	進行上のポイント
1 本時の学習の見直しをもつ。 (1) 前時の振り返り (2) 本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 言葉のもつ力について考えよう。 </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ステップ2で考えた「あったか言葉」「ちくちく言葉」とその理由を確認する。 ○本時は、上記の言葉の中から、同じ意味であっても、言い方の違いで相手の受け止め方がどう変わるかを考えていくことを話す。
2 いくつかの言葉を嬉しい言葉順にランキングする。 (1) グループごとの活動 シチュエーション① 友達を遊びにさそって断られたとき シチュエーション② お互いの不注意で相手とぶつかったとき シチュエーション③ 休み時間にサッカーをしていて、決定的なチャンスにシュートはずしてしまったとき (2) 各グループの発表 (3) 嬉しい言葉、嬉しくない言葉の共通点を話し合う。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ランキングの語群は前時に集めた言葉を用いる。 ○単にランキングにするだけでなく、なぜそうしたのかをグループ内で話し合うようにする。 ○早くできたグループは、語群の他にも言葉がないかを考えさせる。 ○他のグループからも質問や意見があれば適宜意見交換を行う。 ○話し合いでは、各自自分の考えをまとめ、次にグループ内で話し合い、全体での意見交換につなげる。
3 最上位と最下位の言葉でロールプレイをする。 (1) シチュエーションごとのロールプレイ (2) 演じた人、聞いていた人の感想	10	<ul style="list-style-type: none"> ○最上位の言葉と最下位の言葉を使ってロールプレイを行い、それぞれの言葉を言われたときにどう感じるかを体験させる。 ○言葉集めをしたときの台本を用いる。
4 本時のまとめをする。 (1) 今日の授業の感想 (2) 自分が使っている言葉の振り返り	10	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を通して感じたことを自由に発表させる。 ○前時（または事前）の言葉集めの結果から、学級内の児童の実態をグラフ化させるなどして、振り返られるようにする。 ※言葉の影響力について考え、理解できたか。

エピソード

同 級生の「ありがとう」

私は、11歳の8月11日に日本に来ました。2学期が始まった日に、近くの小学校の5年生に入学しました。担任の先生の温かい配慮もありましたし、クラスの人たちもみんな優しくしてくれました。でも、私の心は緊張の連続でした。家でも学校でも。

学校生活は、友達がよく助けてくれましたのでどうにか出来ました。日本語はほとんどわかりません。少し気をゆるめると、全部雑音になってしまいます。みんなが一生懸命に教えたり、話かけたりしてくれるので、私も、いつも笑顔で応えていました。この頃は、本当に疲れました。

ある日の授業中、隣の席の友達が消しゴムを落としました。私の足下に転がってきたので、拾って友達の机の端にのせました。その時、その友達がにっこりして、小さな声で「ありがとう」と言ってくれたのです。その時から、私は「ありがとう」が大好きになりました。それからは、自分でも使うようにしています。

毎 日毎日がひたすら我慢だった

僕は、15歳の8月に中国から来日した。その時は、あこがれていた日本で新しいことに挑戦出来るという思いでいっぱいだった。

夏休みが終わり、中学2年生としての全く新たな生活が始まった。自転車で通学を始めたが、いつも始業ぎりぎりに教室に入る。なぜなら、日本語はわからないし、クラスの人たちとどうつき合っていけばよいのかもわからない。出来るだけ話をしなくても済むように工夫し、一人でいるようにした。「言葉がわからない」というのは、とてもつらいし、寂しいものだ。この頃は、毎日毎日がひたすら我慢だった。

そのうちに、友達の話していることも少しずつわかるようになってきた。僕の日本語がどうであれ、友達をよく話しかけてくれていたと思う。校地に接した山へ虫取りに連れて行ってくれたり、サッカーをして遊んでくれたり、いつもなにかと誘ってくれていた。部活動にも誘われ、みんなと協力することで、気持ちが一つになる楽しさも知るようになった。いつも話しかけてくれる友達と、その言葉がうれしかった。

「中 国人のくせに…」

僕は、2003年5月に15歳で日本に来ました。来日10日目ぐらいで地域の公立中学校へ1年生として入学しましたが、年齢も体格も、小学校を卒業して間もないクラスメイトとはかけ離れており、一目立つ存在だったようです。でも、日本語は全くわかりません。特に、教室で友達同士が楽しそうに話している休み時間の会話は、本当にわかりませんでした。それで、何を話しかけられても首を横に振るだけでした。

そんな状態で2～3週間が過ぎた頃です。この言葉は、はっきりと聞き取ることができたのです。「中国人のくせに・・・」「中国人なんか・・・」言いようのない怒り、悔しさ、情けなさ……。我慢できない気持ちでした。

家に帰ってから両親に「もう学校には行かない」と言ったとき、父がいろいろと夜遅くまで話をしてくれ、やっと気持ちを納めることが出来ました。それで、翌日からまた通学を続けました。

ロールプレイ台本



※ランキングの語群 (例)

今度遊ぼう！
用事があるから無理
ごめん…

別な人と遊ぶの、ごめん
ごめんね、用事があるの
今日遊べないんだ

無理！
ごめんね、でも来週だったらいいよ
いやだし、無理

Situation.1

シチュエーション①

友達を遊びにさそって、断られたとき

自分 ねえ、今日は先生たちの会議があるから4校時だって。

相手 うそお！？やったー！！

自分 うちに帰ったら、いっしょに遊ばないかい？

相手 (ランキング最上位と最下位の言葉で言ってみよう。)



※ランキングの語群 (例)

ごめんね だいじょうぶ？
じゃま
ごめんなさい

今度から気をつけて
すまん！
ごめん！

ぶつかってんじゃね～よ バカ！
どけ！
だいじょうぶ？

Situation.2

シチュエーション②

お互いの不注意で相手とぶつかったとき

(お互いに少しふざけていて、後ろ向き同士でぶつかる)

自分 と **相手** 痛い！

相手 (ランキング最上位と最下位の言葉で言ってみよう。)



※ランキングの語群 (例)

おいしいおいしい！
ドンマイ！だいじょうぶだ！
なんで入れなかったんだよ！

おいしい！次入るよ！
なにやってんだよ カス！
ドンマイドンマイ！

バ～カ！
おしかったね
おい！

Situation.3

シチュエーション③

休み時間にサッカーをしていて、決定的なチャンスにシュートはずしてしまったとき

自分 (パスをねらい) よっし、これは決められるぞ！

相手 いけえー！決められるぞー！

自分 (シュートをして) ああ！はずれた…。

相手 (ランキング最上位と最下位の言葉で言ってみよう。)